

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2015.8-2017.7)

## 2015年度第4回(最終)理事会 議事録

日時：2016年7月5日(火) 12:30~15:20

場所：東京ドームホテル 5F 初音

【理事会構成員】理事総数：20名、出席理事：20名

理事長：安河内聡

副理事長：角秀秋

理事：市川肇、市田蒔子、岩本眞理、小山耕太郎、賀藤均、鎌田政博、坂本喜三郎、白石公、鈴木孝明、住友直方、土井庄三郎、富田英、野村裕一、檜垣高史、朴仁三、三谷義英、山岸敬幸、山岸正明

監事：佐地勉、佐野俊二、中西敏雄

庶務：深澤隆治、藤原優子

【議事の経過の概要および議決の結果】

### 1. 開会

定刻に安河内理事長が議長となり、定款第27条2項の定足数を満たしている旨の報告がなされ、本理事会の開会が宣言された。続いて議長から議事録署名人として鈴木孝明理事、住友直方理事が指名され、全会一致で承認された。

審議に先立ち、議長からこの1年に亡くなられた会員の報告がなされた。

(名誉会員)石澤瞭氏、大國眞彦氏

(特別会員)荻野廣太郎氏

(元会員)保崎純郎氏

以上4名のご冥福を祈り、全員起立し黙祷を捧げた。

### 2. 報告事項：

<理事長より>

2015年度の事業報告として、安河内理事長より下記の報告がなされた。

2015年度の事業報告：

医療機器等要望書の提出・学会事務局の移転・分科会規約の制定・ホームページのリニューアル(2016年9月予定)・50年誌編纂・成人先天性心疾患に対する横断的検討会議の提案・学校心臓検診ガイドライン改訂・海外学会との共同事業(world congress2017、日中韓3か国

フォーラム)・小児慢性特定疾病事業・厚労省ならびに PMDA との共同作業・臨床治験に向けての実態調査・企業との提携事業

また、2015 年度に提出した要望書について事業報告として、下記の通り報告がなされた。

2015 年度提出要望書：

- ・Palmaz ステンツ安定供給に関する要望書 (JPIC 学会合同)
- ・小径体外循環カニューレ安定供給に対する要望書 (日本心臓血管外科学会・日本胸部外科学会と合同)
- ・「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法案」成立を求める要望書への連名について (日本循環器学会ほか、複数学会合同)
- ・成人先天性心疾患の横断的検討委員会(仮称)の設置 (日本循環器学会)
- ・肺動脈性肺高血圧症治療薬(エポプロステノール)の小児適応早期承認に関する要望書 (厚労省)

また、2016 年度の事業計画として、下記の報告がなされた。

2016 年度事業計画：

小児心疾患発生頻度の実態調査・カンデサルタン使用実態調査・専門医制度年次報告新システム構築・臨床試験促進制度構築・英文誌発刊・学会からの情報発信強化・次世代育成の制度設計・理事選挙・社会制度整備への提言

<各委員会より>

#### 1) 総務委員会

富田委員長より会員数の動向と合わせて報告がなされた。

- ・会員種別について定款の改定を提案している。改定案は理事会にて文言をチェック後、総会で承認されれば、東京都に事務局所在地変更・会員種別変更の定款変更の認証申請を行う。
- ・18 名より新規評議員申請があった。うち 5 年間の業績不足により 1 名辞退されたため、17 名の推薦を総会に諮りたい。

#### 2) 学術委員会

小山委員長より報告がなされた。

- ・分科会制度については、認定基準をより明確にするため、細則を定めた。認定基準としては、正会員数 50 名以上など、10 項目を定めている。学会からの経費補助や、小規模の分科会を守り発展させる仕組みなど引き続き検討していきたい。
- ・研究委員会の見直しについては、現在の研究委員会 15 課題を 1 回終了として、新しい制度に則った研究委員会を来年度から新たにスタートさせたい。課題は公募を原則とし、課

題 A と課題 B を設ける。課題 A は 3 課題程度として経費補助を行う。課題 B は経費補助なし。

- ・国際交流については、AEPC への短期若手研究者派遣、AHA との短期若手研究者派遣制度の締結、AEPC の YIA の推薦を行った。AEPC への短期若手研究者派遣については 1 名につき 20 万円の補助を出している。また、今年はパリにおける連続テロの影響で、留学時期の変更について相談があった。緊急事態への対応も整備する必要がある。AHA との短期若手研究者派遣制度については初年度 1 名ずつ受け入れる予定。第 50 回 AEPC 学術集会には JSPCCS からの YIA として 3 名を推薦し、国立循環器病センターの羽山陽介先生が選出された。

- ・今年度の短期若手研究者派遣の受け入れ施設には 6 施設の立候補があり、これから選考する予定。

- ・顕彰委員会としては、功労賞に中澤誠先生、安井久喬先生を推挙した。高尾賞は今年度の該当者はなし。YIA、CRA、宮田賞については資料の通り選考した。

### 3) 教育委員会

鎌田委員長より報告がなされた。

- ・学術集会時の教育セミナー、秋の教育セミナーアドバンスコースとも黒字で運営している。
- ・第 13 回教育セミナーは「心電図と房室弁」、次回アドバンスコースは「薬物療法」をテーマにする。教育セミナーと医療安全セミナーを半年後に動画配信予定。
- ・アドバンスコースは当番幹事へ会場費など前払いの費用を負担させることもあるので、30 万円程度、学会から準備金を拠出してほしい。会の終了後に返金を依頼する。
- ・動画配信の閲覧の入り口が分かりにくいいため、4 月から学会ホームページのトップページにバナーを設置した。アクセスが増加している。
- ・各分科会の教育講演が一覧でわかるように、m3 にページの作成を依頼している。

### 4) 多領域専門職委員会

日沼委員長の代理で小山理事より報告がなされた。

- ・活動の中心は多領域専門職からの学会参加を支援することであるが、参加は少ない。医師の協力を得たい。

### 5) 専門医制度委員会

土井委員長より報告がなされた。

- ・2015 年 11 月 1 日(日)に実施した第 6 期専門医試験では 23 名受験し、18 名が合格した。
- ・第 7 期専門医試験は 10 月 30 日(日)あるいは 11 月 6 日(日)に東京医科歯科大学にて実施予定。試験委員会にて試験問題を作成中である。受験書類の症例要約など、新しい書式を検

討し、改定している。

- ・第1期専門医試験で認定された専門医の更新書類審査を行った。更新対象者は254名で、247名が更新した。7名は更新せず、保留・不備は18名だった。今年は第2期専門医試験で認定された専門医の更新申請を受け付ける。対象者は69名、書類審査を第7期専門医試験前後に行う。

- ・新専門医制度により医師偏在が強くなる危惧があり、他学会と連盟で要望書を提出した。地域医療の現場意見が取り入れられるように変更があった。7月中に次年度の方向性が出る予定とのこと。

- ・鈴木理事：学術集会や講習会の参加記録について、ICカードのようなものを配布し、参加証をスキャンすることで簡便化する必要があるのではないか？

- ・安河内理事長：予算が必要とされるため慎重に検討したい。

## 6) データベース委員会

三谷委員長より報告がなされた。

- ・稀少疾患とCHDサーベイランスを継承する。登録は広くとりたい。

- ・6月24日に厚労省の説明会に参加し、小児科学会より単年度予算1000万円を獲得した。この予算でデータベースシステムを作る。総会で報告後、2017年1月より調査を開始し、2018年から報告・集計を目標とする。現場の手間を減らせる、使いやすいシステムにした

心血管疾患の遺伝子疫学委員会の山岸敬幸委員長より報告がなされた。

- ・小児期発症心疾患サーベイランスを行った。今回は症例数のみ報告させるシステムで、次年度からは新システムとする予定である。

形態登録委員会の朴委員長より報告がなされた。

- ・安藤正彦先生のコレクションをデータベース化し、閲覧できるようにする。3000例分の写真があるうち、最初に1000例分のデータベース化を行いたい。

- ・標本展示に使用している標本の劣化がみられる。

- ・形態登録委員会の開催を年2回で定例化させたい。

## 7) 移植委員会

福嶋委員長の代理で白石理事より報告がなされた。

- ・3月、7月に委員会を開催した。移植適応患者の状況、小児移植状況報告、ベルリンハートの現状、重症心不全コンサルタント、シンポジウム、命の授業の全国展開の方向を検討した。

- ・安河内理事長：海外渡航の増加傾向がある。今後の整備を提言していただきたい。

・佐野監事：厚生省会議でこどものデータ、Donation が 80～90 あるが虐待・ドナー施設の問題などで 17-18 に減った。支援体制を整えたいので、施設などの問題点を明らかにしてほしい。

・賀藤理事：コーディネーターの教育、脳死判定基準の整備が必要。

・中西監事：Berlin heart の臨床もデータに基づき活動したい。

・小川会長：脳死判定医が少ない。日本小児循環器学会・救急治療学会の登録など小児科医がなったほうがよい。評議員に依頼を出す、判定医に関する情報を整理する、などはどうか。

・中西監事：班会議提案の移植施設基準提案を出した。来年あたり実施に動く方向である。小児病院でも可能とし、移植推進をしていきたい。

人工臓器/補助循環制度委員会の市川理事より報告がなされた。

・Berlin heart 9 例、1 例待機、死亡例なし。

・埼玉医大、女子医大、静岡こども、成育で新規購入予定。

・Excore は院内検討で装着可能だが、移植施設以外では連携施設と連携をとる予定である。

## 8) 社会制度委員会

賀藤委員長より報告がなされた。

・難病指定：第 2 次終了、第 3 次は 3 割程度の承認となるよう。小児慢性特定疾病は 2017 年をめどにオンライン化を目標としている。小児慢性 DB より調査したい希望があれば、賀藤理事に連絡いただきたい。

学校心臓検診委員会の住友委員長より報告がなされた。

・学校心臓検診の心電図基準を見直し中である。今後の課題としては、健診の実態を出したい。

蘇生科学委員会委員会の太田委員長の代理で三谷理事より報告がなされた。

・近日中に一次調査データがまとまる見込み。生存例、救急医学会とのコラボ、Web database などをすすめる。

成人移行医療検討委員会の白石委員長より報告がなされた。

・日本循環器学会等と横断的検討委員会を立ち上げた。小児循環器学会としては患者教育ツール、診療体制モデル提言、保険加算実現をすすめる。2017 年 6 月に社会保障含めて提言をまとめたい。

男女共同参画検討委員会の岩本委員長より報告がなされた。

・女性医師の参加しやすい学会を目指す。Web 会議により、他の問題点も抽出していく。

・小川会長：託児所の費用がかかる。今回は 1 日 15,000 円で、利用者側、学会側、学術集会側で 1/3 ずつ負担する。10 人以上の申し込みがある。

・野村理事：学会総会での託児所の広報を早期にしたほうがよい。

#### 9) 保険診療・臨床試験委員会

薬事委員会の中川委員長の代理で賀藤理事から報告がなされた。

- ・データ収集を行い、早期導入の検討をする。

医療材料・機器委員会の杉山委員長の代理で賀藤理事から報告がなされた。

- ・医療デバイスは厚労省と折衝中である。
- ・CP ステンツの目標症例は終了しており、次年度承認の方向である。
- ・Melody valve は PMA approve に格上げされ、PMDA に相談予定。

臨床試験委員会の三浦委員長の代理で賀藤理事から報告がなされた。

- ・学会と企業の連携を推進、医師主導治験をすすめていきたい。

#### 10) 学会雑誌編集委員会

白石委員長より報告がなされた。

- ・電子化から1年半が経過し、査読は順調、投稿も増加しており、中堅医師による総論企画は好評である。
- ・英文雑誌は2017年夏を目安に準備中。外国人招待者に総論を書いていただく。Impact factor をとるように現時点でスタートする。

#### 11) 倫理委員会

土井副委員長より報告がなされた。

- ・倫理審査のフローを見直し、迅速審査を行っていきたい。
- ・継続審査案件として重症ASの安全性試験の研究計画を審査中である。

#### 12) 利益相反委員会

野村委員長より報告がなされた。

- ・学術集会でのCOI自己申告について等、メール審議を中心に行った。
- ・Q&Aを学会ホームページにアップ予定。
- ・小児循環器学会雑誌の投稿時の利益相反申告を7月から進める。
- ・地方会開催時の利益相反申告の現状把握のためにアンケート調査を行った。団体の温度差があり、今後審議していきたい。
- ・小川会長：779演題中48演題に疑義があった。学術・倫理・COIでシステムを協議していただきたい。

#### 13) 医療安全委員会

鈴木委員長より報告がなされた。

- ・医療安全セミナーでは、医療事故調査制度について医療安全調査機構の木村壮介先生に講師をお願いしている。
- ・本年4月より医療安全調査機構の社員となった。機構の社員総会にも出席している。
- ・外部委員推薦依頼時のフローや経費の取り決めをした。
- ・小川会長：セミナー費用が学術集会負担となっているが、学会主催のセミナーであるため、費用負担を再考し、運営マニュアルで規定をしていただきたい。

#### <財務報告・審議>

##### 1) 2015年度決算案報告

山岸敬幸理事より報告がなされた。

- ・年会費の徴収率が上がり、収入が増加した。
- ・予算との比較としては、管理費が会議費を含めて150万円増加（会議費含む）している。法人格変更費用として確保していた100万予算は使用せず。
- ・専門医制度の方は専門医更新対象者が多く、更新料で300万黒字、おおむね差異なし。

##### 2) 2016年度会計監査報告

中西監事より2015年度の会計報告について適正であることを確認した旨、報告がなされた。

➤ 全会一致で2015年度決算が承認された。

##### 3) 2016年度予算案提案

引き続き、山岸敬幸理事より2016年度予算の提案がなされた。

- ・学会誌オンラインジャーナル化により広告料収入は減収しているが、印刷費、送料などの経費は600万円削減できている。
- ・支出予定として英文誌発刊のために160万円、学会ホームページリニューアルとして180万円、教育セミナーアドバンスコースに30万円の前貸しなどがある。学術集会の際の委員会会場費などの経費は学会本体からの支出となる。学術委員会にて研究委員会の再編が検討されており、経費補助について検討している。管理費は事務局委託業者変更のため、費用に変動があり、100万計上した。法人税の支払いについては委託費を含めて予算120万円を見込んでいる。専門医制度は65万円のマイナス収支を予想している。

➤ 全会一致で2016年度予算が承認された。

#### <学術集会報告>

第52回学術集会の小川会長から学術集会開催にあたり会員の協力を謝辞が述べられた。また、第51回学術集会(2015年)の佐地会長より謝辞と会計報告がなされた。

第 53 回学術集会(2017 年)の坂本会長より進捗状況について報告がなされた。

### 3. 審議事項：

#### 1) 総務委員会

富田委員長より下記の提案がなされた。

- ・理事選任、理事選挙に関する定款施行細則の改定：選挙理事 10 名から 12 名に変更する。投票は 12 名連記。うち、最小でも女性 1 名、外科系 3 名を加える案が提出された。
  - ・角副理事長：立候補者を増やす努力も必要。地域単位で立候補者推薦システムを構築するように提言したい。
- 全会一致で承認された。
- ・学会ホームページリニューアルについて：資料のサイトマップが提出された。コンテンツの追加として「市民の方へ」のページに Q&A コーナーの設置案、各委員会議事録の掲載案がある。ご意見を 7 月中にいただきたい。
  - ・学術集会への補助金の取り扱い：資料の通り提案がなされ、7 月中に検討することとなった。
  - ・学術集会運営マニュアル案：資料の通り提案がなされ、8 月中に内容の確認を進めることになった。

#### 2) 学術委員会：小山委員長

小山委員長より下記の提案がなされた。

- ・研究委員会制度見直しについて：多施設の研究を対象として公募する。テーマを広く設定し、要望課題も検討したい。資金獲得は難しいが小児循環器学会として取り組むべき課題などを採用する。申請時には従来よりも詳細な研究計画書を提出させる。研究期間は 3 年としているが、10 年でも可能とする。成果報告として、英文投稿と学術集会での研究委員会報告をさせたい。
- 全会一致で方針が承認された。

#### 3) 編集委員会：白石委員長

白石委員長より下記の提案がなされた。

- ・英文雑誌発刊について：既に承認されている事項だが、2017 年の発刊に向けて準備を進めている。英文の投稿について理事の施設からもぜひご協力頂きたい。
  - ・テキスト発刊について：小児循環器学のテキスト発刊を進めたい。業者は診断と治療社に依頼する予定。今後打ち合わせを進めていく。
- 全会一致で承認された。



<その他>

1. カンデサルタンの使用実態調査について

- ・安河内理事長より、カンデサルタンの使用実態調査について厚労省から調査の依頼があり、日本小児腎臓病学会と共同で進める旨が報告された。

2. 循環器病対策基本法について

- ・安河内理事長より、日本循環器学会から提案がされた「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法案について」意見回答依頼がなされ、持ち回り審議とすることとなった。

3. 第8回 TAKAO International Symposium

- ・中西監事より、第8回 TAKAO International Symposium(2017. 10. 6～8)の案内がなされた。

4. HP(英語版)の充実について

- ・安河内理事長より、リニューアル後、英語版の HP のコンテンツ拡大について検討したい旨、報告がなされた。

**4. 閉会：**

以上をもって本日の議事を終了し、議長から議事への協力に謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過および結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人がこれに押印する。

2016年7月5日

議 長 安河内 聰

議事録署名人 鈴木 孝明

議事録署名人 住友 直方

(以下余白)